南蛮の風紀行-24 ナバーラからアラゴン経由カタルーニアへ

ナバーラからアラゴン経由カタルーニアと言っても何のことかと思うでしょう。要はパンプローナを出発してサラゴサ経由でバルセロナまで移動したということです。ザビエルが生まれた時代、彼の祖国ナバーラ国の王都はパンプローナでした。サラゴサはそのナバーラ国を滅ぼしたアラゴン国の王都です。バルセロナはフランク王国時代から続くバルセロナ辺境伯領の中心都市ですが、その辺境伯領が独立するかしないかで話題になっているカタルーニア州と重なっているというわけです。

９世紀初めの頃の辺境伯領。その西のはずれにバスクの名前があります。但しバスク人たちがそのことを認めていたかどうかは、はなはだ疑問です。

現在のフランスとスペインの国境に横たわるピレネー山脈は、古代ローマの時代から戦略的な要衝だったようで、古代ローマの時代はローマとカルタゴ、ローマ帝国滅亡後はキリスト教徒とイスラム教徒、中世になるとフランスとスペインの、この山を挟んでの攻防の戦史とそこに登場する英雄たちは数えきれません。

また現代までピレネー山脈の西方に生活圏を形成しているバスク人たちは、大国の思惑に抗し続けて今でも独自の暮らしを守り続けています。バスク地方と言われる彼らの文化圏はスペイン側に４州、フランス側に３州あって、そのうちのスペイン側の一番東側に現在でもナバーラ州と呼ばれているかつてのナバーラ国がありました。では、ナバーラ国がバスク人の樹立した国だったかというと、そうとも言えないようです。大体、バスク人には現代人のわたしたちと共通する「国」という意識は無いようで、むしろ大友宗麟の時代の豊後のようにいわば地侍の集団による緩やかな合議体のような政体だったとも言えます。ここにもザビエルが短期間に豊後の侍たちの心をつかんだ秘密の一つがあるのかもしれません。

パンプローナ郊外にあるローマ時代の水道橋がローマの華やかなりし頃の面影を、今に残しています。

さてザビエルの時代から６～７００年、フランク王国の時代までさかのぼると、このピレネー山脈の南麓はフランク王国の辺境伯領となっていました。辺境伯とは聞きなれない言葉ですが、フランク王国が周囲の国境地帯に置いた防衛圏をそう呼んでいました。辺境伯とは爵位の一つで、公爵と伯爵の間の階級でしたから日本では普通「侯爵」と訳しているようです。このスペイン辺境伯領はイスラム教徒との攻防線だったために重要視されていました。１７のブロックに分けられバルセロナに本拠地を置く辺境伯（侯爵）の元、１１人の地方長官が治めており、バスク地方も現在のカタルーニア州もその範疇でした。

ほぼ東西に延びてフランスとイベリア半島を分けているピレネー山脈の、西のパンプロ

サラゴサまでのバスは、かつてのナバーラ侵略の道を遡っていきます。

ーナから東への移動ですが、バスク地方はもともとスペインだフランスだという意識がなく、両国にまたがって広がる地方であり、一方のバルセロナはフランク王国の出先だったという歴史性を今でも色濃く残して、スペインとは一線を画しているカタルーニア地方の中心都市です。

さらにその両方に接していたサラゴサは旧アラゴン国の王都でした。しかもアラゴン国は１３世紀にはカタルーニア（したがってバルセロナ）を従え、１６世紀にはナバーラ国を滅ぼしたわけですから、スペイン側が力をつけていく過程で、フランスの影響下の辺境伯領を蚕食していった過程が見えてきます。そういえばピレネー山脈の山間に今も存在しているアンドラ公国は辺境伯領の一つだったのですが、スペインの保護下とはいえ唯一現代まで独立行政体を維持しています。

ところで２１世紀に旅するわたしの行動ですが、早朝ホテルを出て駅に向かったのですが､バルセロナ駅行きの列車は既に全席完売でした。仕方なくタクシー乗り場に出たら、さっき載せてきてくれた運転手が「それならサラゴサまで出れば、そこからなら新幹線（AVE）がいくらも出ているので、今日中に着けるよ」と教えてくれました。早速バスターミナルに向かい、サラゴサ行のバスを聞いたところ２時間待ちで乗れました。お蔭でスペイン第５の都市でもあるサラゴサも経由できることになり、バスク顔の運転手に感謝したところです。

サラゴサ駅に到着したマドリッド発バルセロナ行の新幹線（AVE）。

ところが何せ行き当たりばったりの旅です。前日、パンプローナから携帯電話で予約をしていたバルセロナのホテルの部屋が、まるで布団部屋のように狭くて、旅行かばんもベッドの上でないと開けない有様なのです。もともと予約の時に｢狭いよ｣と言われていましたが、いくつも当たった後のことでもあり、とにかく寝ることさえできればとリザーブしたため、あきらめるしかありませんでした。た

この部屋に２泊することになりました。鏡の向こうがバストイレです。家内の顔は切れる寸前状態です。

このホテルの入り口は広いんですがね。

だこのホテル、ランブラス通りに面していることや地下鉄の駅にも近いというロケーションは申し分なく、朝食をとるテラスも雰囲気が素敵でした。決して負け惜しみでなく部屋の狭さ以外は良い選択でした。